2021年2月　日本語論文

2003　　朝倉真一　野嶋政和

地域活性化を目的とした社寺境内地におけるフリーマーケットの特性と課題に関する研究

フリーマーケットは開かれた出店体系が特徴である。京都市では12か所で月に1度一定日に開催されている。その中から社寺で開催されている、「さえずり市」「今宮市」「西陣楽市楽座桃山文化村」を事例として取り上げた。フリーマーケット利用者と出店者との間に会話や情報交換のコミュニケーションが生まれ、フリーマーケットを中心にネットワークが誕生し地域おこしができる。また、地域住民が出店者側になるとその土地の特性が独自に生まれる。フリーマーケット利用者は買い物だけではなく、娯楽やレクリエーションの場所としての高い認識を持ち合わせている。社寺境内のようにオープンスペースで開催されるフリーマーケットが地域活性化に寄与するためには、継続的な開催が求められる。また、コミュニケーションを中心とした多様なレクリエーション、娯楽の場、地域住民が多様な主体として参画可能な場とすることが求められる。